# Funai Overseas Scholarship 第1回留学報告書

井上 剛

2019 年 6 月

## 1　はじめに

2019 年度奨学生の井上剛と申します。今年の秋から New York University (NYU) で Computer Science の Ph.D Program に進学します。NYU では Global Ph.D Student という立場で，1 年目に NYU の New York 校で必修授業を受けた後，2 年目以降は NYU の Abu Dhabi 校 (NYUAD[1]) に拠点を移します。NYUAD では，Computational Approaches to Modeling Language (CAMeL) Lab[2]の一員として，自然言語処理の研究に取り組みます。

この報告書では，留学を考え始めてから留学先大学を決めるまでの過程について報告します。

## 2　大学院留学に至る経緯

学部は，東京外国語大学でアラビア語を専攻していました。在学中，アラビア語の新聞記事を日本語に翻訳する活動に取り組むなかで，日々蓄積していくデータを有効活用できる方法はないかと考えていたところ，自然言語処理という研究分野があることを知り，卒業後は奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST) の自然言語処理学研究室に進学することにしました。入学当時の考えでは，修士号が取れたら NAIST で博士号取得を目指すつもりでしたが，そのまま進学したとしても D2 の時点で指導教員の先生が定年退職されることがわかっていたため，海外大学院進学も選択肢のひとつとして頭の片隅に入れておくようにしていました。

M1 のときに取り組んでいた研究テーマで著名な NYU の先生が，2016 年 12 月に大阪で開催された国際学会に参加することを知って，連絡をとってみたところ，ミーティングをしてくださることになりました。このとき，自然言語処理の研究をはじめて 1 年も経っていない未熟な学生に対して，1 時間以上も時間をとって話をしてくださったのが印象的でした。ミーティングでは，研究内容に関するやり取りのほかに，将来的に Ph.D 留学を考えていること，その前にまずは 1 年間，訪問学生として研究留学をしたいことを伝えました。研究留学の費用は，トビタテ！留学 JAPAN「日本代表プログラム」[3]という官民協働の留学奨学金制度を利用するつもりである旨も同時に伝えました。その後，2017 年 8 月から翌年の 8 月まで，この奨学金の支援を受けて留学先の指導教員と一緒に研究をすることになりました。

Ph.D 留学を心に決めたきっかけは，この留学経験でした。1 年間 CAMeL Lab で研究をして，やはりこの環境でもっと研究がしたいと強く思うようになりました。採用する側からみても，1 年間一緒に働いてみて大丈夫そうであれば，安心して採用ができるだろうと思います。各種奨学金制度，インターンシップ，共同研究などで海外に行く機会がある方は，志望する教員のもとで一定期間研究滞在をしてみると，雰囲気がわかってよいかもしれません。うまく行けば，推薦状を執筆してもらえたり，有益な情報がもらえたりします。

[1] https://nyuad.nyu.edu/

[2] https://nyuad.nyu.edu/en/research/centers-labs-and-projects/computational-approaches-to-modeling-language-lab.html

[3] https://www.tobitate.mext.go.jp/

# 3　出願準備

## 3.1　出願校選び

1 年間留学をしていた NYU が志望度において頭一つ抜きん出ていました。研究留学をしたのも，留学先の研究が自分の関心に最も近く，自分自身も研究室の活動に貢献できると感じていたためです。実際に，私が 2017 年に発表した論文は，留学先研究室の論文を複数引用しており，その後同研究室からは，私の論文が複数回引用されることになりました。このことから，相性は抜群だと確信していました。

当初，第 1 志望の NYU だけを受験しようと考えていたのですが，NYU の先生から「他も受けてみてはどうか」と勧められたため，University of British Columbia (UBC) と Johns Hopkins University (JHU) も受験することにしました。少なくとも 5 年は一緒に働くことになるため，研究テーマの近さだけでなく，これまで個人的に会って話をしたことがあり，先生の雰囲気もある程度わかっていたところだけに出願することにしました。

UBC の先生は，2016 年に赴任した Assistant Professor で，アラビア語を対象とした言語処理をされています。2017 年の 8 月に Vancouver で開催された国際学会で発表をした際，初めてお会いしました。そのときに，研究や UBC について 30 分くらい話をする機会がありました。その後 2018 年の 5 月に宮崎で開催された国際学会で発表をした際は，15 分くらい話をしました。その時は，NAIST の指導教員の先生にも会っていただきました。出願前の 11 月には，Skype で 1 時間くらい研究内容や大学の様子について話をしました。

JHU の先生は，NAIST 自然言語処理学研究室の元助教で，JHU では Senior Research Scientist をされています。2012 年 8 月に初めて NAIST の研究室見学をした際一緒にお昼を食べたときと，2017 年の 2 月に研究室の先輩と 3 人で生駒山に登ったときに雑談をしたくらいで，受験を検討している旨は伝えたことはありませんでした。その後も結局，連絡を取ることはありませんでした。

## 3.2　出願書類の準備

### Statement of Purpose (SoP)

SoP は 11 月 13 日から書き始めました。留学先研究室の先輩からいただいた実例や日本学術振興会特別研究員に応募した際の資料を参考に，内容を練り上げました。船井情報科学振興財団から奨学金を得た旨も記載しました。12 月 4 日に英文校正に出したあと，英語母語話者の友人にもう一度確認をしてもらい，翌日，審査委員の加藤雄一郎先生に添削をお願いしました。加藤先生からいただいた助言を受けて最後に 1 文を追加し，12 月 8 日に SoP が完成しました。

#### 推薦状

推薦状は，博士前期課程の指導教員 (NAIST)，留学先の指導教員 (NYU)，学部の指導教員 (東外大) の 3 名に依頼をしました。正式に推薦状執筆依頼をしたのは 11 月 2 日でしたが，先生方にはかねてから「推薦状をお願いすることになるかもしれない」と口頭でお伝えしていました。3 名とも参考資料等は送らずに執筆していただくことができました。

### CV

CV には，学歴，職歴，海外経験，発表論文，研究プロジェクト，受賞歴について記載しました。また各項目には，簡単な説明文を付け加えました。出願時の業績は，査読付き国際学会の発表が 2 件でした。また船井情報科学振興財団から支援を受けること，日本学術振興会特別研究員の内定をもらっていることも記載しました。

#### 成績表

東外大と NAIST の成績表を提出しました。両校とも 4 段階評価だったため，こちらで GPA の計算はせずにスキャンした英文成績表だけを提出しまし

た。学部時代の成績は,「良」3つを除いて他は「優」，大学院ではすべて「優」でした。

### GRE

GREは，11月11日に初受験した際にV150; Q152; AWA3.5しか取れず，その後猛省をすることになりました。有料のテスト対策サイトと過去問を使って，焦らずに落ち着いて解く練習をしました。出願締切直前の12月7日に再受験した結果は，V151; Q166; AWA3.0でした。すでに送られていた1回目の点数があまりに低かったために，出願締切翌日，NYUの先生からSkypeで確認の連絡が来ました。その際「まだ届いていないようですが，2回目の点数は足切りを超えているはずです」とお伝えすると，安心してもらえました。そのとき「Writingの点数も低かった」と正直に報告したところ,「論文執筆を指導した際はしっかりと書けていたから，そのことを内部の出願管理システムにコメントとして残しておく」との返答をいただくことができたため，少しほっとしました。UBCは，GREスコアの提出が不要でした。

### TOEFL

8月4日にAbu DhabiでTOEFLを初受験をした際の結果は，93点（R25; L30; S18; W20）でした。帰国後，大阪で11月4日に再受験をして，最低限必要な点数を1点だけ超えた101点（R28; L29; S22; W22）を取得できたため，受験を終えました。対策にはYouTube，NetFlix, Quora[4]などを活用しました。Quoraには，TOEFLのWriting Sectionで出るような質問と回答が多く掲載されていたため，とても参考になりました。

### 奨学金

船井情報科学振興財団を含む2財団に応募しました。もう一方の財団は，書類選考通過の連絡を受けた時点で，すでに船井情報科学振興財団の奨学生に選ばれていたため，面接選考は辞退しました。

## 4 出願結果

出願結果を表1に示します。

| 出願校 | 合否 | 内定 | 正式 |
|---|---|---|---|
| NYU | 合格 | 3月11日 | 3月21日 |
| UBC | 合格 | 2月9日 | 2月16日 |
| JHU | 不合格 | — | 4月3日 |

表 1: 2019年度海外大学院出願結果

NYUは，出願後2月27日に連絡があり，3月9日，10日にAbu Dhabi校で開催されたGraduate Candidate Weekendに招待されました。このイベントでは，大学施設やGlobal Ph.D Studentについての説明，教員とのミーティングなどが行われました。ミーティングでは，専門的な何かについて聞かれるということは特になく，逆に研究室で進められているプロジェクトについて教えてもらいました。帰国前の挨拶に行った際，内定を言い渡されました。10日ほどで正式な通知メールが届きました。

UBCは，出願後2月9日に志望指導教員から連絡があり，Skypeで20分間ほど話をしました。もともとPh.D Track MSc Program[5]に応募していたのですが，Ph.D Programに直接入ることもできるとのことで，どうしたいか聞かれました。結局，学部時代にComputer Scienceを専攻していないというバックグラウンドを考慮して，Ph.D Track MSc Programを選択しました。ここでも知識を試されるようなことは特にはなく，UBCの魅力を教えてもらいました。1週間後に正式な通知メールが届きました。

最終的に，第一志望だったNYUに進学することにしました。

[4] https://www.quora.com/

[5] 北米地域以外の大学院で修士号を取得した学生向けに作られた一貫制プログラム。

## 5　おわりに

ここまで読むとすべて計画通りで余裕だったかのように思われるかもしれませんが，辛かったです。テストが簡単だという人が多くいるなかで，自分だけ例外的に点数が低く，時間的にも後がなかったため，焦燥感に駆られて何にも手がつかなくなったり,「将来がわからない状態」が延々と続くのに不安で眠れなくなり，保健管理センターで睡眠薬を処方してもらったりもしました。10 月から 3 月までの半年間は落ち着かない日々が続きました。

救いとなったのは，周囲の人たちの存在です。食堂で一緒にご飯を食べたり，研究室で他愛もない話をしたりするだけでも心が落ち着きました。船井情報科学振興財団のみなさまからは，交流会や食事会を通して，助言や励ましの言葉をいただきました。審査委員の加藤先生からは SoP に対して有益なコメントを頂戴しました。本当にありがとうございました。

周囲の方々の協力や理解がなければ，大学院に合格するという Ph.D 取得に向けたスタート地点にも立てなかったと思います。さまざまな形でお力添えいただいたみなさまに重ねてお礼申し上げます。